

陽の里

発行 平成30年9月15日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.137

テーマ 地域への貢献活動



▶大津谷クリーン活動の様子

「私たちの役割」と「地域との信頼関係」 の構築〜大津谷クリーン活動から〜

宮路ヴィラ・アンキーノリーダー 高橋美穂

サンビレッジ宮路では、企画委員を中心に自分達が地域に向いて何か貢献できないかと検討し、最初は企画委員だけで『大津谷公園クリーン活動』を始めました。隣接する大津谷公園は年々利用客が増加し、アウトドア派の若者や家族連れで賑わい、ゴミのマナーが話題に上がっていましたので、29年度は事業所の取り組みとして実施出来る様に働きかけをしました。まずは、全体会議で全職員にクリーン活動の目的や意義を伝えながらアンケート用紙を配布し、クリーン活動に対する本音を引き出しました。参加できない理由や参加しやすい曜日や時間帯等も記入してもらう事で、平日だけでなく日曜日にも企画しました。そして、地域の方への啓蒙と職員の意識向上のためにジャンパー作成を企画し、職員皆で選り上げました。お揃いのジャンパーを着て公園利用者やすれ違う地域住民の方々に、笑顔で挨拶をしながら活動することで、地域貢献の意識も高まり職員間に一体感が生まれ、参加者も増えました。また、運営推進委員会で活動報告し、役所・地域住民・家族代表の方々から関心を持って頂き、地域発信することも出来ました。今後も楽しみながら地域貢献の一環としてクリーン活動を継続し、地域との連携も図っていききたいと思っています。

夏休み特別企画 小学生のための社会に役立つお仕事体験

サンビレッジ岐阜 研修部

井上 梓美

今年の夏も岐阜シティ・タワーでは夏休み特別企画・社会に役立つ小学生のためのお仕事体験を開催し、10日間で約130人の小学生の子ども達が参加してくれました。今回も3階医療福祉フロア「サンサウン」や岐阜駅周辺施設の方々にもご協力いただき11カ所でお仕事体験を開催しました。オリエンテーション中は、わいわいがやがやと賑やかで小学生らしさがあふれていた子ども達もいざ体験先に行くと本物の現場の空気に触れて背筋がピンと伸び、真剣な表情で取り組んでいました。また、



▲フーズ体験

◀リハビリ職体験



受け入れのスタッフにとっても「どんな体験にする」と子ども達の魅力の力を

わかつてもらえるかな」と考えながら準備をしたり、当日子ども達と一緒に現場に入ったりすること、自分自身の仕事の魅力を再度考える機会になりました。

これからも社会に役立つお仕事体験を継続してくことで、子ども達が地域・社会に関心を持ち、将来医療・福祉の担い手となるように種まきを続け、少しでも多くの芽が出ることを願っています。このお仕事体験の様子は10月からサンサン広場での写真展で展示します。子ども達にとっての社会へのはじめの一步の様子をぜひご覧ください。

行列のできるパン屋さん 定期訪問販売・どんぐり村手作りパン

サンビレッジほづみ駅前

小宮山 潤

瑞穂エリアでは、どんぐり村福祉工場より手作りパンの訪問販売があります。利用者の皆さんは待ち焦がれたパンを前に「クリームパンにしようか、それともクッキーかな」とひとつひとつ手に取り、見定めながらお目当てのパンを選びます。

どんぐり村のパンはどんぐり村福祉工場で働く従業員の皆さんが全て手作りし、自分達で売ること、対面販売をします。「お年寄りにはあんパンが好きなのでちょっと多めに持って行こう」「焼きそばパンを楽しみにしているあの利用者さんには必ず用意していいよ」「こんな心遣いも対面販売ならではの。「パン、おいしかったよ」の声が何より嬉しく、働く意欲に繋がっているそうです。スタッフの方は話します。「パンが多く売れてくれると従業員の



▶どんぐり村訪問販売の様子

サンビレッジ瑞穂：第1金曜日・午後13時頃

サンビレッジほづみ駅前：第3金曜日・午後13時頃

「しんせい語録」の読み解き

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。



よい介護はよい医療に

勝るとも劣らない

大垣みなみステーション

大倉 富子

私は明治・大正生まれの義父母を見送り、50歳を過ぎてヘルパー2級の資格を取得し、今の職に就いて18年になります。運転免許を持たず、アシスト自転車で利用者宅を訪問しています。

訪問先には病気や障がいのために、やむを得ずベッド上で生活のほとんどを過ごされている方、外出が難しい方がいらつしやいます。私は自転車での移動中に目にして、いる街の中の四季の移ろいや様子、自分自身が感じたことをケアしながらお伝えします。そうすると、思いがけず利用者がこれまでの人生の中で見てきたこと経験されたことをたくさんお話しされます。

「この時期は梅干をこうして作ったよ」「どこそこの桜は絶対に二度見に行つて来て」等々、逆に利用

者から教わったことは数知れませんが、そうした会話をきつかけに今の思いも引き出すことができ、利用者の理解やケアのヒントに繋がっています。小さな日々のやりとりから利用者が前向きな気持ちになり、喜びや楽しみを見出されることが何より私自身嬉しく感じます。

利用者の日常生活に携わる介護だからこそできる、医療に勝るとも劣らない利用者の支え方ではないでしょうか？



▲今日もアシスト自転車で訪問に向かいます

vol.21 「サンブレッジの仲間たち」

チームで働く事。

サンブレッジ瑞穂 看護師チーフ 吉村 清子

瑞穂開設後、徐々に体制を整え3年が経過した時期、医務室の人員も整い地域活動に参加するなど、一見充実しているように見えた。しかし人が増えると、小さな部屋で顔を合わせる時間も増え、他人の粗ばかりが見えるようになった。本当にチームワークとは難しい。人が少ないと必然的に自分一人で仕事は出来ず、誰かの力が必要になる。つまりお互いに協力しながらでないと仕事は回って行かない。人が多いと自分の仕事に余裕ができ、お互いに自分の事だけを考えていても仕事は回って行く。そのため歩調が乱れると、他責の発想になる。また、そういった時程ミスが多い。

様々な課題を乗り越え、今は看護師も各フロア担当として、フロアのスタッフとコミュニケーションをとりながら、利用者の生活に向き合っている。看護師は医療的知識を持ち合わせているが、利用者の課題はそれだけでは解決できない。他の専門家の意見も擦り合わせる柔軟性が必要である。其々の専門性を発揮しながら、お互いの意見を認め合いつつ、チームの一員として業務を行っている。クリニックや、薬局へも出向く事が増え、職員とも話すことが増えてきた。そうすることで、施設医や薬剤師との信頼関係も良くなってきた。相手の立場を尊重しつつ、感謝の気持ちを持ちながらコミュニケーションが取れるようになり、内部のみならず外部他職種との協働で、利用者を支えるチームとして機能していると感じている。



▲温かなコミュニケーション

みずほ

お地藏様をお迎えし入仏式を行いました。



おおがき

8月4日(土) 毎年恒例のBBQ交流会を開催しました。天候にも恵まれ、利用者の方、家族、ボランティアの方々と楽しい時間を過ごす事が出来ました。



やよい

地域の多世代ふれあい夏祭り・地藏盆に参加し、お供え物を持参し、区長さんと一緒にお参りました。



おおがき

「星和中学校交流」3年生の生徒がレクリエーションを考えてお年寄りの方と一緒に楽しみました。また車いす清掃や草むしりなど清掃活動も行ってくれました。



みずほ

穂積中学校より、2年生の生徒が職場体験に訪れました。



ひろとり

リハビリセンター白鳥にて白鳥地区いきいきサロンが行なわれました。多くの方に来所いただき、施設内を見学、リハビリルームでマシンを体験していただきました。



みやじ

今年は台風の影響で宮路の夏祭りが中止となりましたが、ホールで大きな輪を作り盆踊りを楽しみました。



しんせいえん

今年の「しっとりチーム」最年長は八十八歳、まだまだ若い方には、まけませんよ



いちほし

もやいの家市橋では、地域の子供達と一緒に味噌作りをしました。半年後が楽しみです。



ぎふ

中日ドラゴンズの応援にみんなで行きました。

